

スチバーガの副作用マネジメントの工夫

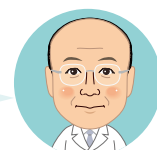
HFSマネジメントの基本が「痛みが出たら休薬」に変化した



板橋 道朗先生

スチバーガ発売から約7年が経過して、副作用マネジメントも進化し、“マネジメントの難しい薬剤”から“三次治療以降の鍵となる薬剤”へと変化しました。発売後7年間で副作用マネジメントはどう改善されたのでしょうか。まず、休薬のタイミングについてお聞かせください。

HFSマネジメントの基本はごくシンプルに「痛みが出たら休薬」になりました。これは皮膚の赤みより痛みの方が患者さんにはわかりやすいからです。当初は痛みを我慢してしまう患者さんもいましたが、早めに休薬することが大事であると理解されてからは、重症化することはほとんどなくなりました。



瀧井 康公先生

患者さんにとって減量の方法を理解するのは難しく、「迷ったら服薬しない」を浸透させることがHFSの悪化を予防する最も良い一手でした。医療者側の意識も、「無理をして治療を続けるのではなく、早めの休薬を心がけ、HFSの回復後に治療を再開する方がよい」に変化しました。



山崎 健太郎先生



板橋 道朗先生

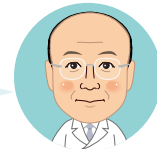
スチバーガはマネジメントが難しい薬剤だとお考えですか？

「痛みが出たら休薬」を徹底すれば難しい薬剤ではなく、発売当時にみられた重症のHFSは今ではまれになりました。



沖 英次先生

PMS¹⁾ではHFSは治療開始1～2サイクル目の発現率が高かったのですが、特にその期間は服用後に手足の違和感を感じる可能性があることを、治療開始前にしっかりと伝えておくことも大事ですね。



瀧井 康公先生

1) Yamaguchi K, et al. Oncologist. 2019; 24: e450-7.

本研究はバイエルの支援により行われた。本論文の著者のうち4名はバイエルの社員である。本論文の著者にバイエルより謝礼金、研究資金等を受領している者が含まれる。

まとめ



板橋 道朗先生

HFSは「痛みが出たら休薬」という簡単なポイントを守ればマネジメントが容易になり、スチバーガは当初のイメージほどマネジメントの難しい薬剤ではないということです。